

【学会報告】

2016 Cold Spring Harbor Laboratory Mechanism of Aging Meeting

参加報告記

玻名城 隼、丸山 光生

国立長寿医療研究センター 研究所 老化機構研究部

私は2016年9月26日から29日までアメリカのニューヨーク州にあるCold Spring Harbor Laboratory(CSHL)でMechanisms of Aging meetingにポスター発表も兼ねて参加してきました。学会参加が決まる前は「アメリカの学会に参加なんて…」と物怖じしていましたが、周りのPIや仲間のポスターに「このミーティングは基礎老化研究の中でも最新のトレンドを知ることができ、ハイレベルなので是非参加してきなさい」と背中を押ししてもらい、様々な面で勉強することができました。今回は国際学会に慣れていない私なりの目線で参加報告記を書いてみたいと思います。

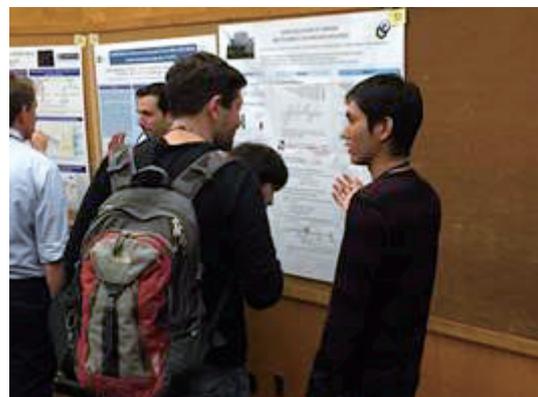
中部国際空港からNYまでは14時間のとても長いフライトでした。CSHLまではニューヨーク市内からロングアイランド鉄道で約一時間かけてSyosset駅まで行きそこからシャトルバスでさらに10分程で研究所にたどり着きます。宿泊は初対面の方と相部屋でしたが宿泊の間おしゃべりしながらリラックスして過ごすことができました。食事は費用が全て参加費に含まれている食べ放題で、フルーツ、乳製品、穀類、野菜、肉など日本での日常生活よりも充実していたため大変満足しました。

私は免疫老化に興味がありポスターも免疫老化に関する内容だったのですが、この分野で他に発表している人は数名しかいませんでした。元々興味を持っている人もほほいようだったので、少しでもポスターを見てくれた人には一生懸命説明しました。関心が少ない事は悔しく感じましたが、反対に老化の視点から免疫老化に取り組むライバルが少ないと解釈し、より一層頑張るって注目される成果を出してやろうと思いました。

免疫研究ではマウスなど脊椎動物を用いた研究が大多数ですが、老化・寿命研究ではマウスを用いた発表よりも、酵母、線虫、ショウジョウバエを用いた研究の多さが目立ちました。この事は老化・寿命研究を継続する為の時間と研究費獲得の難しさが表れているのかもしれない

と感じました。一方で脊椎動物の中でも新しく、長寿命でtumor freeとしても知られるハダカデバネズミや短寿命のキリフィッシュを用いた老化のメカニズム研究も進んでいることを知りました。

私が他の方の発表を聞いて感じたことは、プレゼンテーションが日本の学会等でみるものと全く異なるということでした。日本の場合、主張は謙虚にデータで語るような気がします。海外の場合、裏付けのデータは当然ありながら、研究のストーリーや自分がどんなことをしているのかを自信を持って強烈にアピールしてきます。さらに身振り手振り、ジョークも交えて説明するので興味を持ちやすく演出されています。この文化は自分の中にも取り入れていこうと思いました。またセッションの合間にある休憩ではコーヒーを片手に各々自由にディスカッションをして、食事の時は隣の知らない人とカジュアルに話をして、バーではおバカな話で楽しく盛り上がり…すべての場面で積極的に交流するのが極めて当然のようでした。このような積極的なネットワーク作りと情報交換から面白い研究が生まれるのだと頭では分かってはいましたが、日本でこれまで参加してきた学会よりもMeetingの意義と大切さを実感することができました。この事が今回参加した中で一番の収穫です。



ポスター発表時間に質疑応答する筆頭著者

連絡先：玻名城 隼 〒474-8511

愛知県大府市森岡町 7-430

TEL：0562-46-2311（内線 5113）

FAX：0562-46-8719

E-mail：jun-h@ncgg.go.jp

最後に、CSHL meeting の参加者は昔から大部分がアメリカ拠点のグループですが、近年はアジアでも CSHL meeting が行われるようになってからか、中国・日本・韓国などのアジア勢が EU より高い割合を占めているそうです。この学会は程よく小規模で、参加者はとてもフ

ランクに交流してくれるためたくさん勉強できます

もし CSHL Mechanisms of Aging meeting に参加できる機会があれば積極的に参加することをお勧めします。